

奥の細道

むなしとて険しきに怖ぢ

迷ひては深きに踏たらふ

若くして旅は哀しや

日 暮れて 道なほ遠し

泣くもまたせんなしなど、

ひとり道化て笑ひやまねど

忽ちに咎と返し

そくそくと胸に衝き来る

わびしらよ はかなさよ

いよよ行くほど

鹿の音あはれ

降りしきる落葉の音の深くして

「むなし」

「むなし」

と、訪とめ行きぬ

古木のきしむ日ぞかなし・・・

そのかみの日の

在りし日の

旅のなりはひ いつしかに

わが胸底にしるしたる

憂ひの層のあつけれど

世慣れ 旅慣れ

あはれを知るぞ悟りなれ

戒名おのれに唱ふれば

結ぶわらぢの紐かろく

われもひとりのをきなかな

しまらくは険しきをうなづき

しまらくは深きを愛でつ

今ひそやかにのぼりゆく

飄々たり奥の細道……